受講生添削シート（アルナシ・数字・法規チェックリストー受講生はこのシートに記入してください）

10 設計条件	・近隣住民に親しまれている緑豊かな公園に隣接する敷地 ・読書空間は、自然採光を活用 ・エネルギー自立度
11 敷地及び周辺条件	・建蔽率の限度は 70%（所定の加算を含む。）
12 建築物	・3F 建　地下なし。床面積は容積率のみでフリー

30 要求室

・利用者が使用するエリアには BDS				３０		
部門	室 名	特 記 事 項	床面積	３１	３２	３３
図書部門						
	開架図書室	・OPAC、開架書架、テーブル、いす、キャレル、子供図書コーナー、お話しコーナー　サービスカウンター	300m2↑			
	図書事務室	・サービスカウンター及びサービス EV との動線に配慮	40m2			
	自習室	・デスク、いす	100m2			
	BM 車庫	・ミニ BM(5.5mx2m)、シャッター	35m2			
学習子育て部門	ワークルーム	・室 A（約 200m2）2 室/可動間仕切り ・室 B（約 100m2）、室 C(約 50m2) ・室 A/B/C とも室内に専用の倉庫	計 350m2			
	調理実習室	・準備室、調理台、いす等を設ける。	100m2			
	セミナー室	・図書室のセミナーにも利用	50m2			
	子育て支援センター	・受付カウンター、待合、事務室、相談コーナー、保育室 ・夜間でも利用しやすいよう配置	200m2			
共用・その他	エントランスホール	・風除室、各階つなぐ＝3 層吹抜け ・トップライト	適宜			
	カフェ	・厨房、客席　・広場からも直接出入	70m2			
	多目的ホール	・無柱、ch=6m↑、空調設備	250m2			
	見学デッキ	・多目的ホールを見渡す位置、・いす・自販機	適宜			
	※便所	・男、女、多機能トイレ（オストメイト対応）を各階	適宜			
	※事務室	・受付カウンターはあったほうがベター	適宜			
	※更衣室	・休憩室でも可。便所・給湯室他	適宜			
設備	ポンプ室	・8m2 以上	適宜			
	消火ポンプ室	・15m2 程度	適宜			
		・キュービクルを屋上設置 ・空調室外機、PS、DS、EPS ・エレベーターは、施設利用者用と管理者用とを別に ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等 ・屋上に太陽光パネルを設置	適宜			
・その他の室や倉庫等は、適切に計画する。 ・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。						

14 その他の施設

駐車場	HC１、一般１、S１-3　台	広場	誰でも利用できる＋公園と関連付けた広場 100m2↑
駐輪場	10 台↑	その他	屋上庭園 200m2↑

15 留意事項

注釈４点　①公園との関係性　②子育て支援センター夜間利用　③書籍盗難防止配慮　④エネルギー自立度

21 要求図書

平面図　・最小後退距離　・注釈４点			
断面図　・東西　・エントランスホール　塔屋　屋上設備スペース			

40 法規

41：防火区画 （面積・竪穴・異種用途）	42：延焼ライン ＋外部区画	43：道路斜線・建築制限	44：二方向避難 ＋敷地内通路
45：BF 法	46：建基法（排煙・採光他）	47：建基法以外	

■講師添削シート（受講生の方がこのシートも使っていただいても構いません）

チェック項目			講師評価
T 出題テーマ ・			
D 図面 1：線の表現　2：文字表現 3：図面表記ミス 8：平面不一致　9：未完		**4 法規** 41：防火区画（面積・竪穴・異種用途） 42：延焼ライン＋外部区画 43：道路・北側・隣地斜線・建築制限 44：二方向避難・敷地内通路 45：BF 法 46：建基法関連（排煙・採光他） 47：建基法規以外	
A アプローチ 1：利用者　2：管理サービス　3：指定抜け・過多			
S 配置 1：バランス　2：周辺環境関係　3：未利用		**5 構造** 1：ラーメン　2：キャンチ　3：基礎	
P プラン 1：スケルトン(コア/大空間/吹抜) 2：共用部・建築物形状		**6 設備** 61：空調　62：電気　63：給排水　64：消防 65：４シャフト（PS.DS.EPS.空調用 PS）	
Z 動線 Zoning 1：致命的動線　2：ヌケ/長 3：ゾーニングミス　4：階振りミス		**7 面積表・断面図** 1 階、2 階、3 階、建築面積、建ぺい率 寸法、室名、基礎、塔屋、他	
質問回答・講師所感（略）			

受講生書込み欄

□答案の課題点（質問含む）	□時間	目標/合計	所要時間
	行程	目標/総時間	所定時間
	読解	60/60	分
	エスキース	40/100	分
	要点	60/160	分
	作図	170/330	分
	チェック	30/360	分
	時間に関しての反省点		

課題： 学習レベル課題 A	エスキース（あり・なし） 要点は今回なし	ファイル名 ID 課題回数-提出日付.pdf サンプル：z01A1-0112.pdf	ファイル名

I. 設 計 条 件

この課題は、ある都市の市街地にあり、近隣住民に親しまれている緑豊かな公園に隣接する敷地に、多目的ホール等を有する地域のコミュニティセンターを計画する。
計画に当たっては、特に、次のことが求められている。

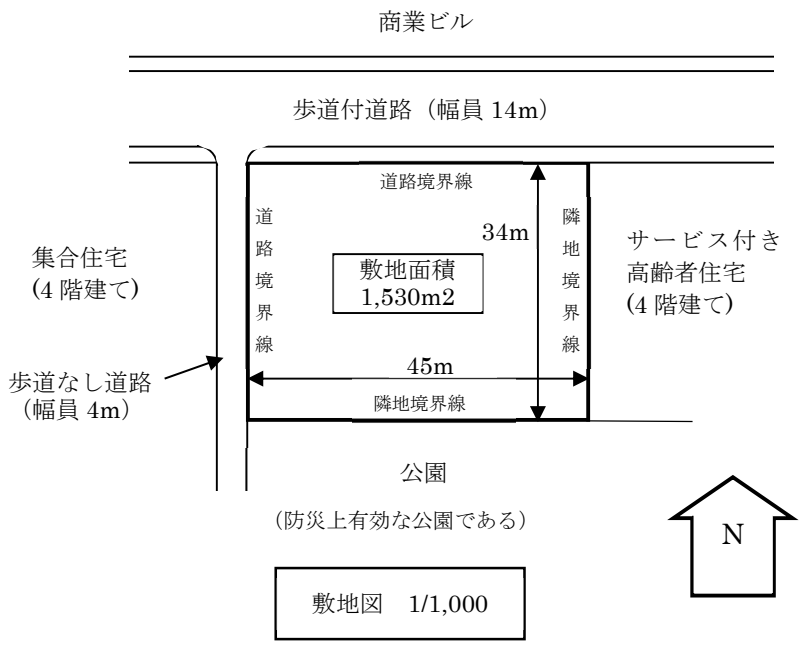
⑴ 多世代や多様性の尊重・交流等を促し、公園を含めて文化活動の拠点とする。
⑵ 読書空間は、自然採光を活用する。
⑶ 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めた計画とする。

1. 敷地及び周辺条件

⑴ 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」のとおりである。
⑵ 敷地は平坦で、敷地と、道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、1か所(6mまで)のみ可能である。
⑶ 敷地及びその周辺は、住居地域(道路高さ制限における斜線勾配は 1.25 とする。)及び準防火地域に指定されて いる。また、建蔽率の限度は 70%(所定の加算を含む。)、容積率の限度は 200%である。
これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による指定、許可等並びに日影による建築物の高さの制限はない。
⑷ 敷地に隣接する公園所有者及び管理者は、当該敷地も所有し管理している。
⑸ 電気、ガス及び上下水道は完備している。
⑹ 地盤は良好で杭打ちの必要はない。
⑺ 気候は温暖であり、積雪について特別の配慮はしなくてよい。また、水害の危険がない地域である。

2. 建 築 物

⑴ 構造形式は自由とし、地上3階建ての耐火建築物とする。
⑵ 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化基準」を満たすとともに、ユニバーサルデザインとすることが求められている。



⑶ 要求室
下表の室は、すべて計画する。

・図書部門のうち利用者が使用するエリアには BDS を設け、書籍の盗難を防止する。
・要求室以外に想定した室名の前には「※」印をつける。

部門	室 名	特記事項	面積
図書部門	図書室	・OPAC、開架書架、テーブル、いす、キャレル、子供図書コーナー、お話しコーナー等を設ける。 ・サービスカウンターを設ける。	300m2 以上
	図書事務室	・サービスカウンター及びサービス EV との動線に配慮する。	約 40m2
	自習室	・デスクといすを配置する。	約 100m2
	BM 車庫	・ミニ BM(5.5mx2m)を駐車する。積込作業を行う。 ・出入口にシャッターを設ける。	約 35m2
学習・子育て部門	ワークルーム	・室 A(約 200m2)は 2 室に分割して利用できるよう可動間仕切りを設ける。 ・室 B(約 100m2)、室 C(約 50m2)を設ける。 ・室 A/B/C とも専用の倉庫を室内に設ける。	計約 350m2
	調理実習室	・準備室、調理台、いす等を設ける。	約 100m2
	セミナー室	・単独で利用するとともに、図書室のセミナーにも利用する。	約 50m2
	子育て支援センター	・受付カウンター、待合、事務室、相談コーナー、保育室等を設ける。 ・夜間でも利用しやすいよう配置する。	約 200m2
共用その他	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・各階をつなぐ吹抜け(面積適宜)を設ける。 ・トップライトを設ける。	適宜
	カフェ	・厨房、客席を設ける。 ・広場からも直接出入りできる。	約70m2
	多目的ホール	・多目的に利用できる室とする。 ・無柱空間とし、天井高さは 6m 以上とする。 ・適切な空調設備を設ける。	約 250m2
	見学デッキ	・多目的ホールを見渡す位置に設ける。 ・いす・自販機を配置する。	約 20m2
	・施設の運営管理に必要な室、その他必要な機能や什器、室等を、適切に設ける。		
設備	ポンプ室	・給水方式は水道直結増圧方式とし、増圧給水ポンプを設ける。	適宜
	消火ポンプ室	・屋内消火栓用とする。	
	・電気設備は、キュービクルを屋上に設置する。 ・空調室外機、PS、DS、EPS 等を、適切に設ける。 ・エレベーターは、施設利用者用と管理者用とを別に設ける。 ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に設ける。 ・屋上に太陽光パネルを設置する。		
・その他必要な室等は、適切に設ける。 ・什器等を、適宜設ける。			

3. そ の 他 の 施 設 等

⑴ 駐車場は、次のとおり計画する。
車椅子使用者用、施設利用者用及び職員の駐車場として各 1 台計 3 台のスペースを設ける。なお、建築物内に設けてもよい。
⑵ 駐輪場は、施設利用者用として 10 台分以上(平置きとする。)を設ける。なお、建築物内に設けてもよい。
⑶ 植栽を計画し、屋外ファニチャーを適切に設ける。
⑷ 公園と関連付け、誰でも利用できる広場(100m2 以上)を設ける。
⑸ 屋上庭園(200m2 以上)を 1 階屋上もしくは 2 階屋上に設ける。

4. 留 意 事 項

⑴ 構造計画については、次の点に留意する。
① 基礎構造については、地盤条件や経済性を踏まえ適切に計画する。
② 耐震性や経済性に配慮し、架構を計画する。
⑵ 設備機器等の搬出入、更新及びメンテナンスに配慮する。
⑶ 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の位置)を記入する。
必要に応じて、延焼ライン及び防火区画(面積区画、竪穴区画等)に要求される所定の防火設備を適切に計画する。
⑷ 地上に通じる 2 以上の直通階段を適切に計画する。必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。
⑸ 以下の点について注釈すること
・公園との関係性について計画として盛り込んだ点
・子育て支援センターについて、夜間利用のために配慮した点
・書籍の盗難防止のために配慮した点
・エネルギーの自立度を高めるために配慮した点
(6) 計画に際し、「建築基準法第 56 条第 7 項(天空率)」、「建築基準法施行令第 5 章の 3(避難上の安全の検証)」等の規定を適用する場合には、「答案用紙Ⅱ」の裏面にその計算過程及び結果を記入する。

Ⅱ. 要 求 図 書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要 求 図 面(答案用紙Ⅰに記入)

「Ⅰ. 設計条件」の要求等を満足したことを明示したうえで、下表に示す事項を図示又は記入して、図面を作成する。(フリーハンドでもよい。)
ほかにも計画上で工夫、配慮した事項について、図面上に什器等を記入して表現し、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1 階平面図 兼 配 置 図 1/200 (2)2階平面図 1/200 (3)3階平面図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法、床面積、室名等、什器等 ロ. 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の有無にかかわらず必ず記入する。)、延焼ライン及び防火区画に用いる防火設備の位置及び種別 ハ. 断面図の切断位置 ニ. 注釈が求められている点について記入する。 ② 1 階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。)、植栽、屋外ファニチャー等 ロ.「敷地内の避難上必要な通路」の経路と幅 ハ. 歩道の切り開き位置 ニ. 建築物から敷地境界線までの最小後退距離 ③ 2 階平面図及び 3 階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から 2 の直通階段に至る歩行経路、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 直下階の屋根、庇等 ハ. 塔屋部分の位置(破線で 3 階平面図に図示する。)
(3)**東西** 断面図 1/200	① 切断位置は、エントランスホールの吹抜け部分を含み建築物全体の構成がわかる東西断面とする。なお水平方向、鉛直方向の省略(杭がある場合その表記除く)は行わない。 ② 建築物の最高高さ、塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、床高及び主要な室名等を記入する。 ③ 高さ制限への適合が確認できる情報(道路、最小後退距離、計算式等)を記入する。 ④ 基礎(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。)、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ⑤ 塔屋及び屋上の設備スペースを図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。)

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

⑴ 建築面積及びその算定式を記入する。
⑵ 床面積の合計及び各階の床面積の算定式を記入する。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー(外気に有効開放されているものに限る。)、屋外階段及び屋上設備スペースは、床面積に算入しない。ただし、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(駐車場、駐輪場、設備スペース等)については、床面積に算入する。

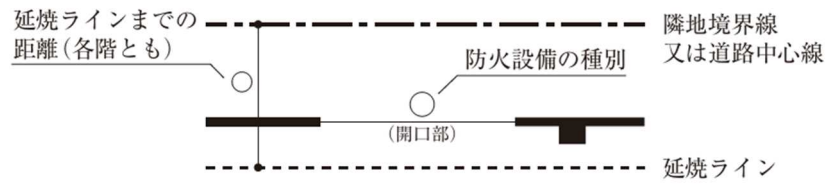
3. 計画の要点等

学習レベル課題では省略

4. 防火設備等の凡例

柱、壁、開口部等を明確に作図し、防火設備の表示(㊖、㊗)については、必要な箇所に**全て記入**すること

【延焼ライン(建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置)と防火設備】



延焼ラインを破線で図示し、隣地境界線又は道路中心線から延焼ラインまでの**距離**を記入すること
また、建築物の外壁の開口部で、延焼のおそれのある部分の開口部に要求される所定の防火設備の**種別**を記入すること

【防火区画に用いる防火設備の位置及び種別】

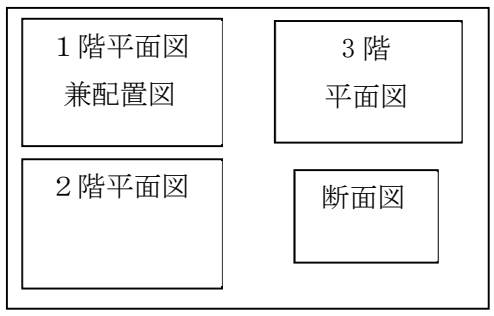
防火区画(面積区画、竪穴区画等)に応じて、要求される所定の防火設備の**位置**及び**種別**を記入すること

【防火設備の表示】

特定防火設備 ㊖	建築基準法第 2 条第九号の二 ロ に規定する防火設備 ㊗

【建築物の計画に当たっての留意事項(課題公表時の再掲)】
○敷地の周辺環境に配慮して計画する。
○バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
○各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
○建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
○構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
○空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

5. 図面レイアウト(製図試験.com 課題指示:本試験では解答用紙Ⅰに記載)



6. 修正点

■添削について
〆切は 1 月 29 日(月)をひとつの目標として、1 月 24 日までの消印でお送りください。添削は約 5 日間以内で返却予定です。
〒554-0012 大阪市此花区西九条 2-7-8-3F 製図試験.com 事務局

送付は原則 PDF とし、郵送する場合はレターパックライトをおすすめします。普通郵便だと最悪 1 週間掛かる可能性があります。
また郵送の場合はコピーを取ったのち、その原本を 4 つ折りしてお送りください。送付の仕方は別途「PDF 送付方法」を御覧ください。

試験場		受験番号	□□ - □□□□□□	HN		製図試験.comID	

令和六年度一級建築士試験「設計製図の試験」問題用紙

令和６年(2024年)度製図試験.com 学習レベル課題Ａ「公園前に建つコミュニティセンター」 ver.240112

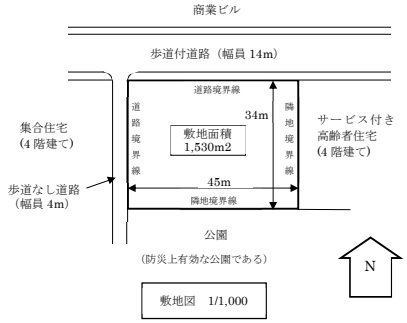
Ⅰ. 設 計 条 件

この課題は、ある都市の市街地にあり、近隣住民に親しまれている緑豊かな公園に隣接する敷地に、多目的ホール等を有する地域のコミュニティセンターを計画する。
計画に当たっては、特に、次のことが求められている。

⑴ 多世代や多様性の尊重・交流等を促し、公園を含めて文化活動の拠点とする。
⑵ 読書空間は、自然採光を活用する。
⑶ 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めた計画とする。

1. 敷地及び周辺条件
⑴ 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」のとおりである。
⑵ 敷地は平坦で、敷地と、道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、1か所(6m まで)のみ可能である。
⑶ 敷地及びその周辺は、住居地域(道路高さ制限における斜線勾配は 1.25 とする。)及び準防火地域に指定されて いる。また、建蔽率の限度は 70%(所定の加算を含む。)、容積率の限度は 200%である。
これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による指定、許可等並びに日影による建築物の高さの制限はない。
⑷ 敷地に隣接する公園所有者及び管理者は、当該敷地も所有し管理している。
⑸ 電気、ガス及び上下水道は完備している。
⑹ 地盤は良好で杭打ちの必要はない。
⑺ 気候は温暖であり、積雪について特別の配慮はしなくてよい。また、水害の危険がない地域である。

2. 建 築 物
⑴ 構造形式は自由とし、地上3階建ての耐火建築物とする。
⑵ 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化基準」を満たすとともに、ユニバーサルデザインとすることが求められている。



⑶ 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室 名	特記事項	面積
		・図書部門のうち利用者が使用するエリアには BDS を設け、書籍の盗難を防止する。 ・要求室以外に想定した室名の前には「※」印をつける。	
図書部門	図書室	・OPAC、開架書架、テーブル、いす、キャレル、子供図書コーナー、お話しコーナー等を設ける。 ・サービスカウンターを設ける。	300m2 以上
	図書事務室	・サービスカウンター及びサービス EV との動線に配慮する。	約 40m2
	自習室	・デスクといすを配置する。	約 100m2
	BM 車庫	・ミニ BM(5.5mx2m)を駐車する。積込作業を行う。 ・出入口にシャッターを設ける。	約 35m2
学習・子育て部門	ワークルーム	・室 A(約 200m2)は 2 室に分割して利用できるよう可動間仕切りを設ける。 ・室 B(約 100m2)、室 C(約 50m2)を設ける。 ・室 A/B/C とも専用の倉庫を室内に設ける。	計約 350m2
	調理実習室	・準備室、調理台、いす等を設ける。	約 100m2
	セミナー室	・単独で利用するとともに、図書室のセミナーにも利用する。	約 50m2
	子育て支援センター	・受付カウンター、待合、事務室、相談コーナー、保育室等を設ける。 ・夜間でも利用しやすいよう配置する。	約 200m2
共用その他	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・各階をつなぐ吹抜け(面積適宜)を設ける。 ・トップライトを設ける。	適宜
	カフェ	・厨房、客席を設ける。 ・広場からも直接出入りできる。	約70m2
	多目的ホール	・多目的に利用できる室とする。 ・無柱空間とし、天井高さは 6m 以上とする。 ・適切な空調設備を設ける。	約 250m2
	見学デッキ	・多目的のホールを見渡す位置に設ける。 ・いす・自販機を配置する。	約 20m2
		・施設の運営管理に必要な室、その他必要な機能や什器、室等を、適切に設ける。	
設備	ポンプ室	・給水方式は水道直結増圧方式とし、増圧給水ポンプを設ける。	適宜
	消火ポンプ室	・屋内消火栓用とする。	
		・電気設備は、キュービクルを屋上に設置する。 ・空調室外機、PS、DS、EPS 等を、適切に設ける。 ・エレベーターは、施設利用者用と管理者用とを別に設ける。 ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に設ける。 ・屋上に太陽光パネルを設置する。	
		・その他必要な室等は、適切に設ける。 ・什器等を、適宜設ける。	

3. そ の 他 の 施 設 等
⑴ 駐車場は、次のとおり計画する。
車椅子使用者用、施設利用者用及び職員の駐車場として各 1 台計 3 台のスペースを設ける。なお、建築物内に設けてもよい。
⑵ 駐輪場は、施設利用者用として 10 台分以上(平置きとする。)を設ける。なお、建築物内に設けてもよい。
⑶ 植栽を計画し、屋外ファニチャーを適切に設ける。
⑷ 公園と関連付け、誰でも利用できる広場(100m2 以上)を設ける。
⑸ 屋上庭園(200m2 以上)を 1 階屋上もしくは 2 階屋上に設ける。

4. 留 意 事 項
⑴ 構造計画については、次の点に留意する。
① 基礎構造については、地盤条件や経済性を踏まえ適切に計画する。
② 耐震性や経済性に配慮し、架構を計画する。
⑵ 設備機器等の搬出入、更新及びメンテナンスに配慮する。
⑶ 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の位置)を記入する。
必要に応じて、延焼ライン及び防火区画(面積区画、竪穴区画等)に要求される所定の防火設備を適切に計画する。
⑷ 地上に通じる 2 以上の直通階段を適切に計画する。必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。
⑸ 以下の点について注釈すること
・公園との関係性について計画として盛り込んだ点
・子育て支援センターについて、夜間利用のために配慮した点
・書籍の盗難防止のために配慮した点
・エネルギーの自立度を高めるために配慮した点
⑹ 計画に際し、「建築基準法第 56 条第 7 項(天空率)」、「建築基準法施行令第 5 章の 3(避難上の安全の検証)」等の規定を適用する場合には、「答案用紙Ⅱ」の裏面にその計算過程及び結果を記入する。

Ⅱ. 要 求 図 書

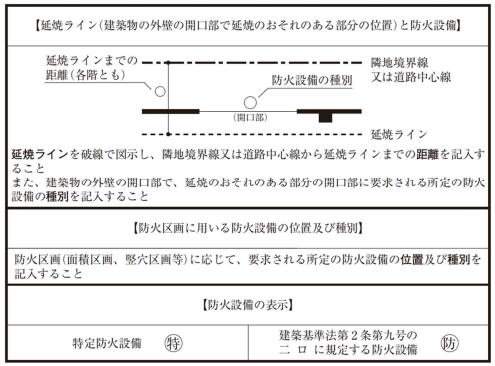
答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。
1. 要 求 図 面(答案用紙Ⅰに記入)
「Ⅰ. 設計条件」の要求等を満足したことを明示したうえで、下表に示す事項を図示又は記入して、図面を作成する。(フリーハンドでもよい。)
ほかにも計画上で工夫、配慮した事項について、図面上に什器等を記入して表現し、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1)1 階平面図 兼 配 置 図 1/200 (2)2階平面図 1/200 (3)3階平面図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法、床面積、室名等、什器等 ロ. 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の有無にかかわらず必ず記入する。)、延焼ライン及び防火区画に用いる防火設備の位置及び種別 ハ. 断面図の切断位置 ニ. 注釈が求められている点について記入する。 ② 1 階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。)、植栽、屋外ファニチャー等 ロ. 「敷地内の避難上必要な通路」の経路と幅 ハ. 歩道の切り開き位置 ニ. 建築物から敷地境界線までの最小後退距離 ③ 2 階平面図及び 3 階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から 2 の直通階段に至る歩行経路、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 直下階の屋根、庇等 ハ. 塔屋部分の位置(破線で 3 階平面図に図示する。)
(3)**東西** 断面図 1/200	① 切断位置は、エントランスホールの吹抜け部分を含み建築物全体の構成がわかる東西断面とする。なお水平方向、鉛直方向の省略(杭がある場合その表記除く)は行わない。 ② 建築物の最高高さ、塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、床高及び主要な室名等を記入する。 ③ 高さ制限への適合が確認できる情報(道路、最小後退距離、計算式等)を記入する。 ④ 基礎(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。)、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ⑤ 塔屋及び屋上の設備スペースを図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。)

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)
⑴ 建築面積及びその算定式を記入する。
⑵ 床面積の合計及び各階の床面積の算定式を記入する。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー(外気に有効開放されているものに限る。)、屋外階段及び屋上設備スペースは、床面積に算入しない。ただし、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(駐車場、駐輪場、設備スペース等)については、床面積に算入する。

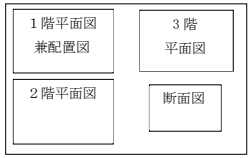
3. 計画の要点等
学習レベル課題では省略

4. 防火設備等の凡例
柱、壁、開口部等を明確に作図し、防火設備の表示(㊐、㊥)については、必要な箇所に**全て記入**すること



【建築物の計画に当たっての留意事項(課題公表時の再掲)】
○敷地の周辺環境に配慮して計画する。
○バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
○各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
○建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
○構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
○空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

5. 図面レイアウト(製図試験.com 課題指示:本試験では解答用紙Ⅰに記載)



6. 修正点

■添削について
〆切は 1 月 29 日(月)をひとつの目標として、1 月 24 日までの消印でお送りください。添削は約 5 日間以内で返却予定です。
〒554-0012 大阪市此花区西九条 2-7-8-3F 製図試験.com 事務局

送付は原則 PDF とし、郵送する場合はレターパックライトをおすすめします。普通郵便だと最悪 1 週間掛かる可能性があります。
また郵送の場合はコピーを取ったのち、その原本を 4 つ折りしてお送りください。送付の仕方は別途「PDF 送付方法」を御覧ください。

試験場		受験番号	□□-□□□□□	HN		製図試験.comID	